桜大臣の姫君

第二回

森谷明子　川野隆司 絵

〈前号のあらすじ〉

那珂姫は、仲のいい、乳母初野の娘もえぎを伴い、桜見物へ。出かけた先は、西の洞院大路の荒れ果てた屋敷跡。那珂姫にももえぎにも懐かしい場所だ。塀も崩れ、大木の桜だけが咲き誇っている。その桜を皇后が取ろうとする。那珂姫の機転で難を免れるが、騒ぎを起こしたことで父の桜大臣に宮中に上がるよう諭される。その矢先、明雅からの手紙が。

那珂姫は二日後、もえぎだけを連れてこっそりと宮中に住む姉上のところへ上がった。居場所をごまかすためにはそれしかない。ありがたい。派手な行列を好む姫君もたくさんいるのだろうが、それは那珂姫の流儀ではない。

姉の桜女御は、宮中の梅壺という御殿に住んでいる。

「那珂姫、よく来てくれました」